

災害に 備える

昨年、九州南部は5月末頃に梅雨入りし、7月末頃に梅雨明けしました。その間、7月豪雨が発生するなど各地で大雨による災害が発生しました。

今年も、九州南部で観測史上2番の早さにあたる5月11日頃に梅雨入りし、平年よりも4日早く梅雨明けが発表されました。

梅雨は明けても、局所的な大雨などに注意が必要です。

また、これからは台風を心配する季節になります。

秋には秋雨前線の停滞による大雨にも注意が必要です。災害に備える季節はまだまだ続きます。

いつ起こるかかわからない様々な災害から身を守るため、日頃から災害に対する備えをすることが大切です。

地域の災害リスクを知る

災害に備えるためには、自分の住んでいる地域にどのような災害リスクがあるかを確認しておく必要があります。また、出張先などで災害の発生するおそれがある場合も、その地域の災害リスクを確認することで災害に備えることができます。

肝付町では、ホームページ上の肝付町防災マップで災害リスクを確認できます。以前配布された冊子は、地図情報の一部が更新されていますので、自分の住んでいる地域の災害リスクに変更がないかホームページの肝付町防災マップで確認してください。



防災スイッチ ON



防災スイッチとは、災害情報や気象情報などのいろいろな防災関連情報を参考にして、災害時の行動タイミングを考えるスイッチ（気持ちを切り替える）のことです。災害時に防災スイッチをオンにするには、いつ、どのタイミングで、何をするかをあらかじめ認識しておく必要があります。

日常的に、防災について考えること、防災気象情報などについて学ぶこと、これも防災スイッチの役割と言えます。日頃から防災のことを意識して災害時の防災スイッチの感度を高める。これが「いつ起こるかかわからない災害に備える」ことになります。

出張先などの災害リスクは、国土交通省のハザードマップポータルサイトで確認できます。サイト内の「重ねるハザードマップ」又は「わがまちハザードマップ」を選択して確認してください。

町民の皆様へ

防災管理監

吉永 弘志

冒頭では、記録に残る肝付町のかつて発生した大災害を紹介しました。被災直後や史碑等が建立された当時は、災害に対する備えや防災意識はとて高かったと考えられます。しかし、時間の経過とともに被災の記憶は薄れ、危機感も遠のいてしまいます。過去の災害から学ぶことは、とても重要です。学ぶという意識を持つこと事態が危機意識を高め、防災スイッチをオンにすることになります。

かつての大災害が発生した時代と今とでは、自然環境も生活様式も違います。砂防や治山治水事業も進み、様々な防災情報や気象情報を手でできます。しかし、「昔のような大災害が肝付町で発生するはずがない。」とは言いきれません。想定を超える大惨事を招く災害が発生する可能性は、ゼロではないのです。